

The logo consists of the letters 'N', 'V', and '5' in a white, sans-serif font, each separated by a thin vertical line. This text is enclosed within a thin white circular border.

N|V|5

ENVI Agent 実践紹介

デスクトップアプリから、対話で進める解析プラットフォームへ

NV5 Geospatial 株式会社

2026年9月18日

INDEX

目次



AIエージェントの基礎

ENVIのAIエージェントへの対応

ENVI Agent 機能紹介・デモ

導入するには

Today's Goal

既存のENVIユーザーとして、
Agent機能を自分のワークフローにどう組み込めるかが
イメージできる状態になること

「AI エージェント」が今、注目されている背景

AI エージェントは単なる話題ではなく、実務効率化の手段として企業導入が加速しています

生成AI（チャット）

質問に対して答える受動的なもの

文章や画像といった成果物をつくる

保存など最後の操作は人の仕事



AI エージェント

指示に対して自律的に動作するもの

実際に動作し、タスクを完了させる

AIが外部ツールやAPIを道具として使う

なぜ業務効率化の観点で有効性が高いのか

「答えるAI」ではなく「実行するAI」であることが、手順を調べ・手を動かす負担からユーザーを解放する

Tech Trend

- ✓ 大規模言語モデル(LLM)の性能が大きく向上した
- ✓ MCP(Model Context Protocol)など、LLMと既存ソフトウェアをつなぐ標準的な仕組みが普及した



ENVIでもこれらの技術を活用した自動化への取り組みがはじまった

GeoAIというコンセプト

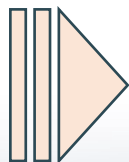
GeoAIとは、ENVI・GIS・企業データをAIと連携させ、専門家だけでなく一般利用者也自然言語で地理空間解析を活用できるようにするための、NV5の戦略・仕組みである

ENVI Agent

- ENVIアプリケーションをAIエージェントとして活用するための仕組み

GeoAgent

- NV5 SaaS 上で動作する、GISワークフローの自動化に特化したチャットAIサービス

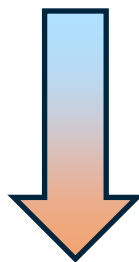


ここからは、ENVI Agentの魅力に迫ります。

デスクトップアプリから、対話ベースでの解析指示へ

いままでのENVI:

最終的には「ユーザー自身が調べて、手を動かす」ことが前提のデスクトップアプリ



- ✓ 使いたい機能・手順を自分で調べる必要がある
- ✓ ツールの選択、パラメータ設定など、細かな操作は手作業
- ✓ 習熟には一定の学習コストがかかる

これからのENVI:

目的を言葉で伝えるだけで、ENVI Agentが手順を計画し、実行してくれる

- ✓ 「調べる」「操作する」から「対話する」への転換

ENVI Agentとは(3つの利点)

- ✓ 解決したい課題や目的を言葉で指示するだけで、ENVI上の複雑な操作を行うことなく解析結果を得られる支援機能
- ✓ ユーザーは、ボタン操作などの細かな手順に煩わされることなく、判断内容の確認、出力の調整、方向性を見直しを行いながら、目的に沿って解析を進めることができる



1 データ準備を単純化

- ✓ 解析前のデータ準備・クリーニングには多くの時間がかかります。
- ✓ ENVI Agentはワークフローを標準化し、データの構造や特徴に応じて処理を最適化することで前処理を効率化します。



2 専門家のように解決

- ✓ 処理中に発生したエラーに柔軟に対応し、問題の解決や回避を行いながら処理を継続できるよう支援します。



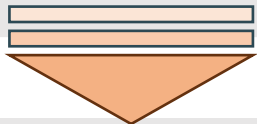
3 透明な意思決定

- ✓ ENVI Agentが実行する処理は、ユーザーが内容を確認しながら進めることができます。
- ✓ ワークフローの見直しや調整、自身の知見の反映も可能で、納得のある意思決定を支援します。

ENVI Agentで何ができるのか

ENVI Agentの機能

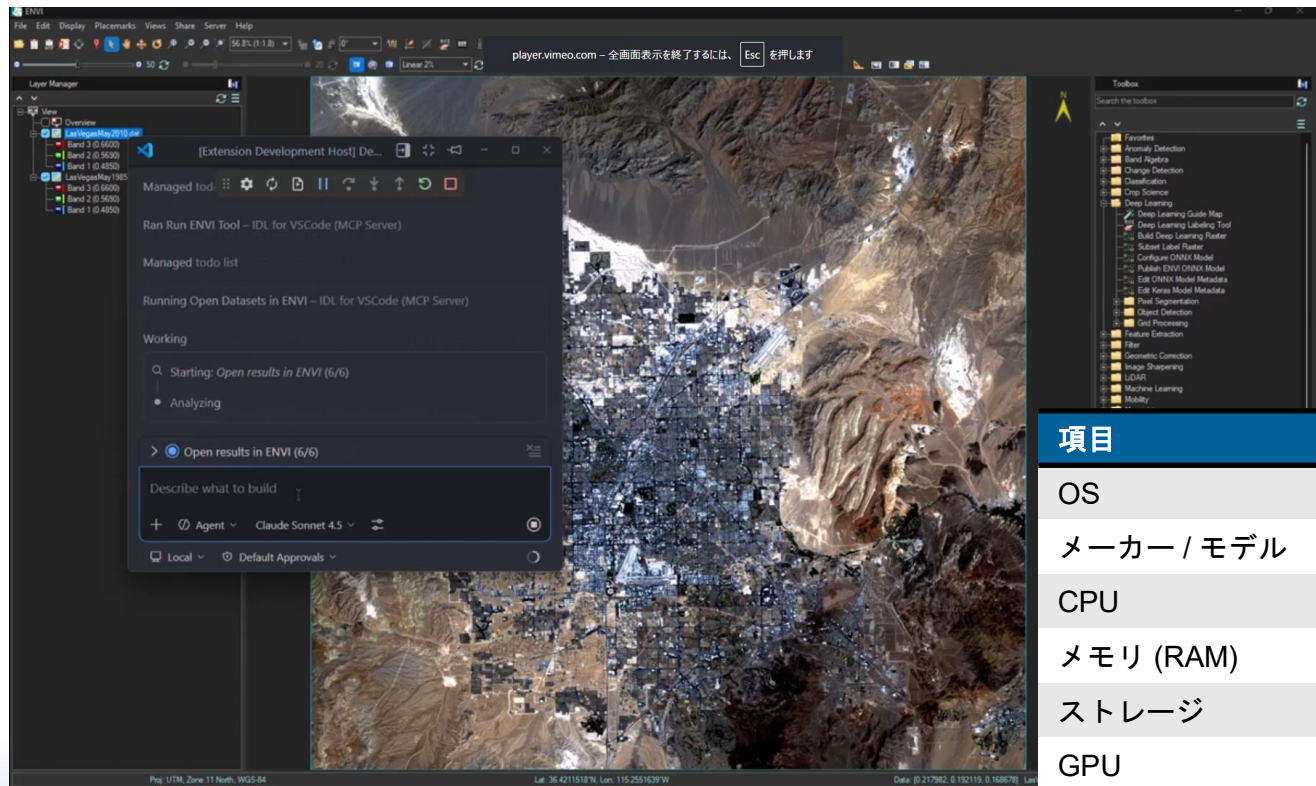
- ✓ ENVIでデータを開き、ツールを対話的に実行
- ✓ リモートセンシングワークフローの計画・実行
- ✓ バッチ処理の実行
- ✓ ワークフローをIDLコードまたはIDL Notebookとして表現
- ✓ ENVIに関する製品質問への対応



投げかける質問例

- ✓ このデータで変化検出ワークフローを計画するのを手伝っていただけますか？
- ✓ 利用可能なENVIツールは何ですか？
- ✓ このデータをENVIで開いてもらえますか？
- ✓ ENVIを使用して、スペクトルライブラリから特徴をマッピングするための教師あり分類はどのように行いますか？
- ✓ 処理実行後、そのワークフローをIDL Notebookにまとめてもらえますか？

ENVI Agent デモ



ENVI Agentのデモを通して
その操作性をご確認ください

参考: デモを行う端末のスペック

項目	内容
OS	Windows 11 Pro (64bit) / Build 26200
メーカー / モデル	MouseComputer / E4I7G60DBBBC
CPU	Intel Core i7-12650H (10コア / 16スレッド、最大2.3GHz)
メモリ (RAM)	32GB (16GB × 2枚)
ストレージ	NVMe WD_BLACK SN850X 4TB
GPU	NVIDIA GeForce RTX 4060 Laptop GPU (VRAM 4GB)
内蔵グラフィックス	Intel UHD Graphics (共有VRAM 2GB)

最新動向:光学・SAR・言語を横断する対話型ワークフローへ

SARscape 6.3.1以降、ENVI AgentはSARscapeにも対応する

- ✓ 光学衛星・SAR衛星双方に対する一連の処理・自動化実装を対話ベースで行えるようになる
- ✓ 光学・SARを横断する統合ワークフローへ

ENVIの基幹となる言語 IDL でも、エージェント機能の拡充が進む

- ✓ ENVIのベースとなるプログラミング言語 IDL でもエージェント機能の活用が進められている
- ✓ チャット機能を用いた定義済み変数の参照や実行可能な関数/プロセスの問い合わせといったコーディング/デバッグを支援する機能が続々追加
- ✓ IDLとPythonの連携を意識したコーディング支援にも対応

ENVI Agentをつかうために必要なライセンス

ENVIから、ENVI Proへ

- ✓ ENVI Agentは、「ENVI Pro」という新ライセンスで提供される機能です。
- ✓ ENVI Proのライセンスがあれば、ENVIの標準機能に加えて、以下にあげるような機能についても利用できるようになります。

ENVI Proの提供機能

- 
- ✓ ENVI 標準機能
 - ✓ ENVI Agent
 - ✓ 大気補正モジュール ENVI Atmospheric Correction
 - ✓ 深層学習モジュール ENVI Deep Learning
 - ✓ プログラミング言語 IDL (IDL Agent)
 - ✓ データライブラリ機能 ENVI Catalog

セットアップの流れ

※ 詳細な手順は、弊社HPで公開している『インストールガイド』をご参照ください



ENVI 6.3 + IDL 9.3 をインストールし、ENVI Proのライセンスを認証



VSCodeをインストールし、IDL for VSCode拡張機能を追加（いずれも無償）



GitHubアカウント(無償)を作成し、GitHub Copilot(有償)を契約



VSCodeにGitHubアカウントでログインし、エージェント利用するAIモデルを選択

広がる選択肢: ローカルLLMの活用とオフライン対応

ローカルLLMを構成すれば、インターネット接続のないオフライン環境でもENVI Agentが利用できます

- ✓ 標準構成ではGitHub Copilot(クラウド)経由でLLMにアクセスするためインターネット接続が必要
- ✓ VSCodeの設定から、ローカルLLM(オンプレミス/ローカルホスト型モデル)を構成することも可能
- ✓ セキュリティ・機密性の要件が厳しい組織にとって重要な選択肢

But...

ローカルLLMは一般に、Claude Sonnetなど商用モデルより性能が低い

- ✓ これは、モデル規模が小さいのが主な原因(パラメータ数・学習データ量で劣る)
- ✓ 改善のためにより大きいモデル・より高精度な量子化を採用する場合には、それだけLLMが動作するハードウェアに投資が必要になる。

本日のまとめ

AI Agent・GeoAIという潮流

- AI Agentは話題だけでなく、実務効率化の手段として企業導入が加速している
- 衛星データ活用の領域でも、AIを積極活用する「GeoAI」への戦略転換が進んでいる

ENVIの進化:対話で進める解析へ

- 「調べる」「操作する」だったENVIが、ENVI Agentにより「対話する」プラットフォームへ進化
- 目的を言葉で伝えるだけで、処理の計画・実行・エラー対応までAgentが支援
- SARscape対応により、光学・SARを横断する統合ワークフローへと拡張

導入への第一歩

- ENVI Agentの利用にはENVI Proのライセンスが必要
- ENVI 6.3 / IDL 9.3 + VSCode + GitHub Copilotで利用可能

An aerial photograph of a landscape featuring a river, dense forests, and a rainbow. The image is used as a background for the text.

N|V|5

質疑応答

ご質問をお待ちしております

体験する。学ぶ。つながる。すべて参加費無料でご提供します



ENVI 入門トレーニング

13:00 – 17:00 @ NV5 Geospatial 株式会社 東京オフィス トレーニングルーム



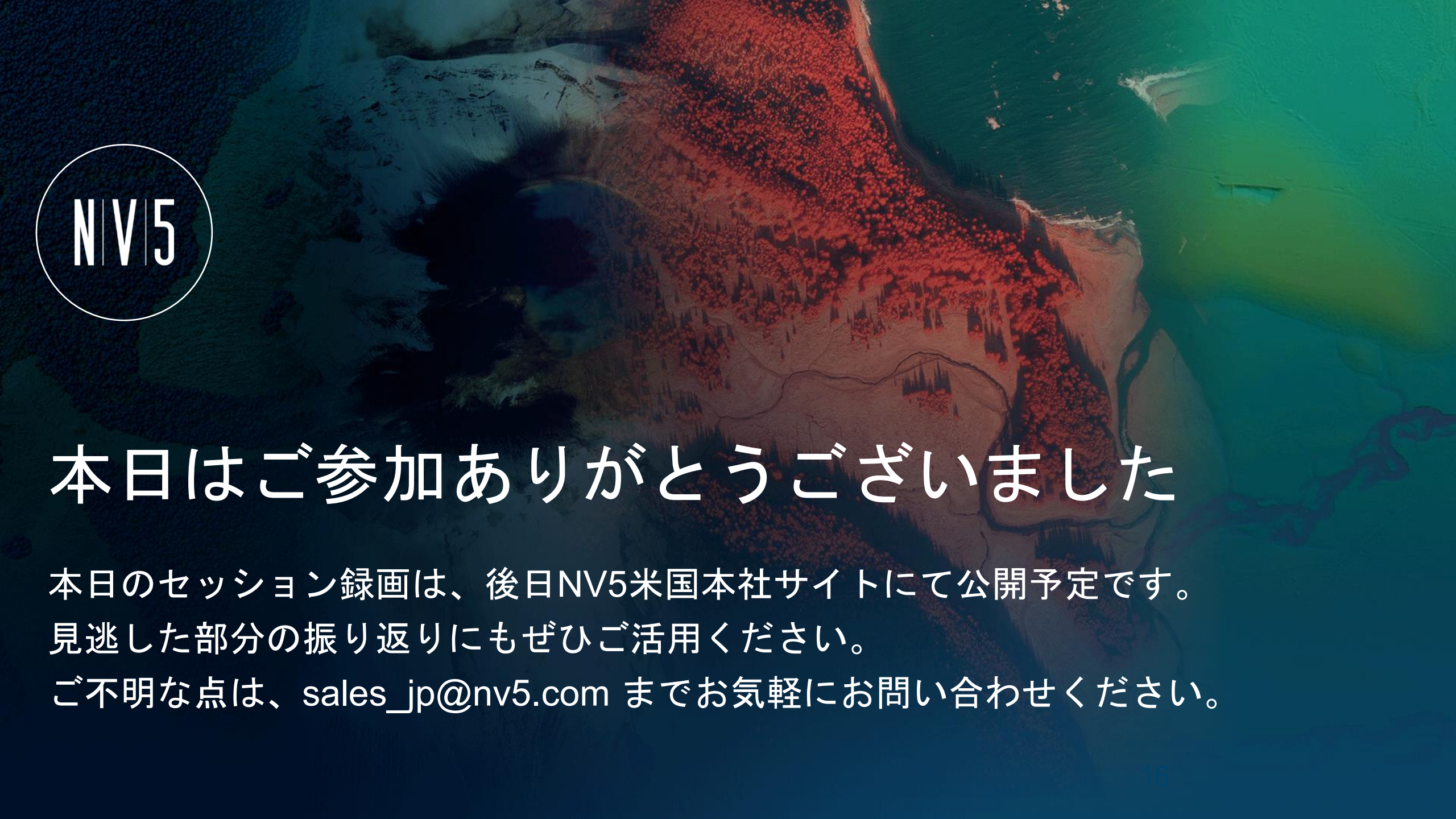
SARscape 入門トレーニング

13:00 – 17:00 @ NV5 Geospatial 株式会社 東京オフィス トレーニングルーム



ENVI / SARscape ユーザカンファレンス 2026

13:00 – 17:00 @ 東京・御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター

An aerial photograph of a forest with a mix of green and autumn-colored trees. A body of water is visible in the lower left, with a faint rainbow arching over it. The overall tone is dark and moody.

N|V|5

本日はご参加ありがとうございました

本日のセッション録画は、後日NV5米国本社サイトにて公開予定です。

見逃した部分の振り返りにもぜひご活用ください。

ご不明な点は、sales_jp@nv5.com までお気軽にお問い合わせください。